

親鴨会 5月メッセージ（時の流れ）

5月に入りコロナの五類への移行もあり、我々の普段の生活は元に戻りつつあることを実感します。それでも、この5年間の体験から、コロナ前に全て戻ることが最適解ではなく、戻すべき点もあれば、変更すべき点も明確になって来たと思います。その一環が、ITインフラを駆使して多くの社会的機能が効率化と新たな機能を付加してきたことだと思います。とは言え、それらは人間関係の基盤である対話や社会制度を補完するものであって、取って代わるものではありません。今年の親鴨会総会は箱崎本社でリアルの参加と同時に、オンラインでの視聴も行うハイブリッドの形で総会を開催しました。こうした多様な参加形態を可能にする開催方法も継続して行くことになりそうです。

総会を終えた数日後に、親鴨会名誉会長であり、日本アイビーエムの名誉相談役の椎名さんの訃報に接しました。驚きとともに、日本アイビーエムや **IBM Corporation** での経営リーダーシップを発揮されている椎名さんの姿や、戦後日本経済成長の中で世界における日本人経営者という観点からの椎名さんの活躍など、多様な視点からの思い出が湧き上がってきます。そして、私が主任営業部員だった頃に担当客先の状況説明の指示を受け、社長室で初めて椎名さんに一対一で緊張しながら報告したこと思い出しました。

時が流れ、歴史の一頁が進んだという思いが募ります。心からの哀悼と感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

親鴨会 会長
内池 正名